

ヴァイオリン

【英：violin / 独：Violine / 伊：violino / 仏：violon】

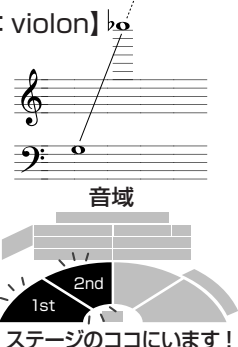
楽器データ

サイズ：全長約 59cm

ヴァイオリンの名曲：《G 線上のアリア》、《ツィゴイネルワイゼン》、《愛の喜び》、《愛のあいさつ》、パッハ《シャコンヌ》など

ヴァイオリンを愛した作曲家：クライスラー、パガニーニなど

ヴァイオリン弾き有名人：【王道系】メニューイン、オistrラフ、アイザック・スターン、諏訪内晶子、五島みどり、安永徹【ポップス系】葉加瀬太郎、高嶋ちさ子、寺井尚子【その他】チャップリン、アインシュタイン、さだまさし



オーケストラのなかで一番の中心となっている楽器……といえば誰に聞いても「ヴァイオリン」という答えに異存はないでしょう。クラシック好きが真っ先に憧れる楽器かもしれません。最多のメンバーを擁し、ヴァイオリンのトップ奏者が務めるコンサートマスター(女性の場合は「コンサートミストレス」と呼ぶ)は演奏でオーケストラ全体をリードする役割を担います。曲が始まるまえの音合わせを仕切るのは象徴的です。今回は、そんなヴァイオリンのご紹介です。

ヴァイオリンは、オーケストラのなかでは一大勢力です。ステージ上の壇に乗っていない手前の平らな部分にいる人たちのうち、左の半分をヴァイオリンが占めているのですから。今日の全出演メンバーのうち、ほぼ3分の1がヴァイオリンです。さらに手前側は1stヴァイオリン、奥が2ndヴァイオリンというふうに、パートが二手に分かれています。同じ楽器なのに違う楽譜を弾いているんですね。では、どんな違いがあるのでしょうか。

1st は主にメロディを担当します。つまり目立つことが多いわけですが、そのために高い音が頻



裏側にも表側にもいろいろな部品がついています

繁に出てきて、高音は音程を正確に取りにくいので難しいとも言えます。一方の2nd は、1st のメロディを少し低い音と一緒になぞったかと思えば、メロディとも低音ともまったく違う内声という動きをしたりと、役割がころころ変わります。

別の言い方をすれば、いわゆるヴァイオリン的な場面と、ヴィオラやチェロ的な場面の両方があるということで、そのぶん楽しみも多彩ですが、演奏には周囲に一層気を配らなければならないなど、より繊細さが求められます。音が低いかから簡単かと思ったら大間違いなのです。

では、ヴァイオリンの奏者たちは、いったいどっちを弾きたいと思っている? 質問してみると意外な答えが……。当然、旋律を弾く1st という人が優勢かと想像していたのに、2nd が好きという人が多かったのです。これは、控えめな性格の人が多いのか、たまたま聞いた人がそうだったのか、定かではありませんが、予想外の結果でした。実際には埼玉フィルでは、1st と2nd のメンバーを曲によって一部入れ替えたりして、いつも交代しています。これはオーケストラでは珍しいことかもしれません。しかし、固定にしないで両方を経験することで、それぞれの良いところと悪いところ——たとえば1st はメロディでしっかり弾く習慣がつく一方で突っ走り気味になりがちだけれど、2nd はじっくり周りの音を聞く訓練ができるなど、違う面を体験できてとても勉強になるんだとか。そしてなにより、両方のパートを弾けることをメンバーが楽しんでいるそうです。

さてここで、楽器そのものにも少し注目してみましょう。美しい高音の音質が女性の声に擬せられるためか「楽器の女王」とも呼ばれるヴァイオリン(ちなみに「王様」はピアノだそう)、よく見るといろいろなパーツからできています。丸みをおびたボディからネックと呼ばれる棹の部分が伸びて、そこに黒い木でできた指板、そして弦が張られています。弦は中央に立つ駒で支えられていて、これは弦の振動を本体に伝える重要な役割

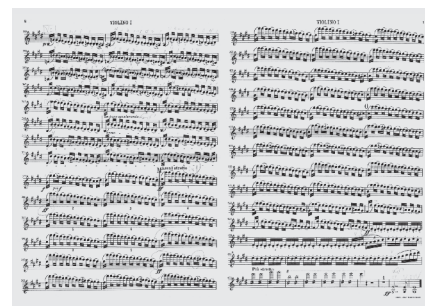
をしています。本体にはあごで挟むためのあご当て、裏側をひっくり返すと肩当てもついています。肩当てはつけられない人もいます。これらのパーツは、すべて音に影響しているのです。ということは……部品を取り換えると音が変わるのです!

例えば弦。材質はスチールが一般的ですが、ガット(羊の腸)、ナイロンでできたものなどもあり、それぞれ音色が違います。駒も形や厚さなどで音が変わるし、肩当てでも変化するとか。こういう部品を取り換えて音を変えてみる楽しみも、ヴァイオリンにはあるんですね。影響が大きいのは弾くときに使う弓です。弓には馬のしっぽの毛が張られていて、これに松やにをつけて演奏しますが、いい弓を使うと楽器がとてもよく鳴るそうです。

さてそれでは、埼玉フィルのヴァイオリン奏者たちの話を少し聞いてみましょう。今回はパートの親睦会(つまり飲み会)に邪魔しました。——なぜヴァイオリンを始めたのですか?

「子どもの頃、よくわからないまま始めてたんですが、最初はピアノをやりたいと言ったら、置く場所がないからヴァイオリンならと言われて」「私も。実は親がピアノを嫌いだっただけ」「私なんて、ヴァイオリンのことも知らないのに『明日から習いに行く』と連れていかれました」「私は近所の音大生が教育課程で教えなければいけないという話があって。親が決めたんですよ」「僕も音大を出た従姉が就職できずに親戚中で習いたい人を探していて、自分が犠牲になったんです。高校生なのに“キラキラ星”とか弾かされて」——なるほど～。でもみなさん幼少の頃から……。「いや、私はヴァイオリンで合奏がやりたくて子育てがひと段落してから習い始めました」

「私も大人になってから。ベテランOLになり、海外旅行とかささん遊び尽くしたので、習い事をいろいろやってたんです。でも、たいていはす



これは大変! 細かい音符がギッシリの《タンホイザー》序曲の最終ページ

られなくなりまし

た」 「大学に吹奏楽部がなかったの



ヴァイオリンの皆さん大集合

のでオーケストラに入りそれからです。それまでは吹奏楽で打楽器だったので、最初の演奏会は打楽器で出ました」

——いろいろな経歴の方がいるんですね。では、ヴァイオリンをやってよかったことって何? 「メロディと内声の両方を経験できることかな」「簡単に持ち歩いて、オーケストラから少人数の四重奏までいろいろな音楽を楽しめることですね。たとえばピアノだとソロが多いでしょう」「弾き方によってはロックやジャズもできます」「音が好きなので弾いているだけで楽しいです」「家で弾いていたら鳥と一緒に歌ったんですよ」「ヴァイオリンに限らないけれど、演奏しているときはママでも妻でも仕事人でもない、普段と違う自分になれるところがいいですね」 「イベントに出たり、四重奏のメンバーと合宿をしたりして、あちこちに世代や仕事などの関係を超えた仲間ができるのも楽しいことです」

「1枚の楽譜を二人で見るとすぐカップルが成立する。アイコンタクトしたり、息遣いを感じたり。合奏中だけのはかないカップルですけどね」——オジサンには理想的!? では大変なことは。「音符が多い。タンホイザーなんて大変なんです」「準備に時間がかかること。どの指をどう使うとか、どの弦を選ぶかで表情を変えようとしていたり、いろいろ考えてると時間がなくなっちゃいます」「人数が多いので合わせる苦労もありますね」「体がねじれる不自然な姿勢で肩が凝ります」 「弦を押さえる左指と弓を持つ右手が違う運動で、そのうえ指揮を見る、弓の動かし方、音程などなど、頭を使う要素が多いので脳が疲れます」——うーん、それは大変そう。でも、皆さんの頑張りがおけ全体の演奏の善し悪しに直結しますから、本番も頑張ってくださいね!

* * 毎回、演奏会のプログラムで、オーケストラで使用される楽器をひとつずつ紹介しています。次回もお楽しみに!